



吉田栄光 浪江町長インタビュー

—浪江町におけるカーボンニュートラル社会構築に関する取り組み—

令和5年2月に政府はGX実現に向けた基本方針を策定し、GX実行会議を開催するなど、産業革命以来増え続ける二酸化炭素の排出を抑制するべく、国、都道府県、市町村、民間などが一丸となった脱炭素に関する取り組みが進められています。また、脱炭素の重要な手段となる水素の活用については、令和5年5月に水素基本戦略を改訂し水素社会実現に向けた取り組みを強化しています。今号では、東日本大震災からの復興をすすめている福島県浪江町をお訪ねし、吉田町長に水素をはじめとするカーボンニュートラルに関する取り組みを伺いました。



浪江町長 よしだ えいこう 吉田 栄光

聞き手：一般財団法人 日本立地センター 専務理事 うえの とおる 上野 透

着実にすすむ浪江町の復興

上野：東日本大震災発生から、13年が経ちました。浪江町の復興状況、進捗はいかがでしょうか。

吉田：浪江町は、震災発生後一時避難を経て22,000人の全町民が町外避難するなど、双葉郡8か町村の中でも特に大変厳しい状況におかれしました。しかしながら、国や県、民間企業や関係機関など皆様のおかげで、町民の居住（現在約2,200人）、企業の進出、一次産業を中心とする基幹産業の再興など着実に復興が進んでいます。

上野：今回、浪江町棚塩産業団地、隣接に整備中のRE100産業団地、道の駅なみえなどを見学させていただきましたが、町長がおっしゃるとおり、企業の進出が進み、また道の駅なみえには、ラッキー公園¹⁾や隣接して整備された「なみえの技・なりわい館」には(株)鈴木酒造店の工場などがあり、構内のフードコートや物産店もいずれも盛況でした。ご当地グルメで有名ななみえ焼そばと地元請戸漁港産の新鮮なしらすたっぷりのしらす丼のセットを大変美味しくいただきました。

吉田：(株)鈴木酒造店は、東日本大震災で蔵が全壊し、また酒づくりの要の一つでもある酵母も

流失してしまい、町内での再開は絶望的でした。

しかし、たまたま品質の研究のために、福島県ハイテクプラザに保管されていた酒母（酵母）が残っていることが判明しました。震災直後から福島県内の酒蔵を借り、また山形県長井市にある東洋酒造(株)にて、残っていた酵母と浪江の米や水を使い、浪江の酒づくりを再開しました。震災から10年が経過した令和3年、ついに浪江町への帰還を果たしたのです。

世界に誇るなみえ水素タウン構想

上野：浪江町棚塩産業団地内の福島水素エネルギー



浪江町の賑わい拠点となっている道の駅なみえ

1) ふくしま応援ポケモンの「ラッキー」をモチーフにデザインされた公園

水素も活用したRE100産業団地の整備

上野：水素に加えて、太陽光、水力、風力等を活用して、立地企業の使用電力を100%再生可能エネルギーで調達するRE100産業団地を棚塩産業団地の隣に整備中です。どのような企業の集積を期待されていますか？

吉田：現在、団地の造成工事を行っております。再生可能エネルギーを供給する地域新電力会社も持続可能性及び地域への貢献度について十二分に検討つつ、令和7年度からの供用開始に向け準備を進めています。水素関連の企業や脱炭素に関心の高い企業などの集積を期待しているところです。

上野：世界的に企業の脱炭素化が求められてきているなかで、このような団地のニーズは高まっていると思います。脱炭素をすすめるモデル産業団地として、私どももその整備を大変期待しているところです。



町長室で行われた対談の様様

世界の研究者が集結～福島国際研究教育機構 (F-REI)

上野：令和5年4月に、浪江町内に国がF-REI（エフレイ）を設置いたしました。F-REIに期待されていることをお聞かせください。

吉田：F-REIは、福島復興再生特別措置法に基づき、国が新たに設立した特別法人です。F-REIの大きなミッションは、福島をはじめ東北の復興を



図2 RE100産業団地は棚塩産業団地に隣接して整備される

実現するための夢や希望となるものであるとともに、わが国の産業競争力を世界最高水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指すことです。国内外から約1,000人の研究者が集まり、ロボット、農林水産業、エネルギー、放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信等の分野の研究をすすめることとなります。

上野：すごいですね。国際研究都市になるのですね。大変楽しみです。

継往開来のまちづくり

上野：最後に、未来に向けた取り組みについてお聞かせください。

吉田：原子力というエネルギーで被害を受けた浪江町は、水素という新たなエネルギーで復興まちづくりを実現するため、水素の利活用に全力で取り組んでまいります。

また、令和3年3月に、浪江駅周辺整備計画を策定しました。令和3年度から令和8年度までの6年間をかけて、皆さんが希望の持てる世界に誇れるような街並みにします。建築家隈研吾氏の協力を得て建築する当町の自然や文化を活かしたシンボリックな「なみえルーフ」、そのもとに整備される交流施設や商業施設が町に新たなにぎわい

を創出すると考えております。

私の好きな言葉の一つに、「継往開来（先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開くこと）」という言葉があります。その意味の通り先人が築いてきた町の歴史と文化を受け継ぎ、復興をすすめ未来を切り開くのが私の責務と考えております。

上野：自然の優しさが感じられるなみえルーフは魅力的ですね。そのもとで多くの人が行き交う情景が目につかびます。日本立地センターとしても、浪江町のさらなる展開がすすめられるよう支援に努めたいと思います。本日はありがとうございました。

（文責 編集部）



吉田町長（写真左）と上野専務



出典：「浪江町周辺グランドデザイン計画」概要版（2022.3）

図3 なみえルーフのイメージパース